

海部高校で “ マリンサイエンス ” 授業をおこないました - 次世代の地域や水産業を支える人材育成 -

海洋生産技術担当 研究係長 中西達也

Key word; マリンサイエンス, 海部高校, 担い手育成, 授業

水産業の成長産業化を目指し、今年 7 月 15 日に徳島県、徳島大学、阿南工業高等専門学校三者において「徳島県水産業の成長産業化及び関連産業の振興に関する協定（マリンサイエンスゾーン協定）」を締結しました。徳島県の中には県立高校も含まれています。マリンサイエンスゾーン協定は、漁獲量の減少、後継者不足や魚価低迷で衰退が懸念される本県の水産業の振興を図るため、参画機関が協力してお互いの強みを活かし、新たなイノベーションの創出、六次産業化などのための研究開発と人材育成を目指すものです。

これまで、水産研究課は、機会があれば徳島大学や徳島科学技術高校の学生さんに対してその時々水産業に関する専門的なテーマで授業をおこなってきました。しかし、今回は、次世代の地域や水産業を支える人材を育成する取り組みの第一歩として、一人でも多くの十代の若者に、水産や漁業に興味を持っていただくことを授業のねらいとしました。

第一回目として、11 月 15 日に私が海部高校数理科学科 1 年生 30 名を対象に 50 分間、徳島県や地元・海部郡の主な漁業や魚、それを取りまく問題の解決に向けての水産研究課の取り組みについて授業をおこないました。

不慣れな授業にもかかわらず、静聴いただき、私からの質問にも的確に答えていただき、授業の終盤には、生徒さんから「面白い特徴的な魚の名前」や「アオリイカのメ方」などの鋭い質問もいただきました。



写真 1. 海部高校での授業風景

今回の授業が、一人でも多くの十代の若者に、水産業や漁業に興味を持っていただく契機になればと思います。